

セキュアなウェブメール ソリューションへのス ムーズな移行

企業名

国立大学法人 京都教育大学

業種

学校・高等教育

京都教育大学は、140年以上の歴史を持つ日本で最も古い教員養成機関の一つである。平成6年に発足した大学附置特別施設の情報処理センターでは約2,000名の教職員と学生に対して、研究のための多様な情報処理基盤を整備するとともに情報処理教育の場を提供している。

デジタル変革の時代の変わり続ける要望にあわせて拡張でき、信頼性が高く情報セキュリティに優れたメールシステムを同大学は求めていた。

ビジネス課題

同大学では、フィッシングメールに起因したアカウントの乗っ取りにより、大量の迷惑メールが学外へ送信される事案が過去に発生した。大学ではシステム面でのセキュリティ対策強化や利用者に対するセキュリティ教育を重ねてきたが、対策が十分に効果を発しているとは言えなかった。情報処理センター長 多田教授は、年々悪質化しているサイバー攻撃に対抗するためには、高度なセキュリティ対策が必要であったと強調する。

オンプレミス環境での多要素認証によるセキュリティ対策強化

大学はマーケットで入手可能な種々のテクノロジーオプションを検討した結果、オンプレミス型メールコラボレーションプラットフォームのZimbraを選択した。その決定には、いくつかの重要な要素が考慮されている。

・最先端のセキュリティ機能

Zimbraコラボレーションは、二要素認証やその他のセキュリティ機能が標準機能としてパッケージに含まれている。同大学では、Zimbraに含まれる二要素認証機能を使用し、2023年度からは、学外からアクセスする場合にはスマートフォンの認証アプリを利用した二要素認証の使用を必須とした。これにより、IDとパスワードの漏洩によるアカウント乗っ取りによる不正への対策強化を図った。

・高速メール検索

大量のメールを保持するアカウントにおいて、過去メールへのアクセス速度に問題があった。Zimbraの強力な検索インデックス機能により、メールボックスの格納容量によらずストレス無くメールを検索・閲覧できるようになった。

・コスト効率

Zimbraシステムをオンプレミスで管理することで、クラウドサービスに比較してのシステムのトータルコストの削減を実現している。さらに、外部のクラウドサービスに依存しないことで、データの完全な保全性を実現した。

・スムーズな移行

Zimbraメールシステム環境の導入については、プロジェクト開始から5ヶ月で、システム構築および約2,000メールボックスの全メールデータの移行を完了し、2022年8月には本稼働を開始した。

直感的なウェブインタフェースが提供されていることで、移行後もエンドユーザーには違和感なく使ってもらえており、使用方法に関する管理者への問い合わせも少なく、情報処理センター職員の日常業務負荷を軽減することができている。

所在地
京都府

選定の決め手

- ・多要素認証 (2FA) によるアカウント乗っ取りの抑止
- ・メールセキュリティ機能の強化
- ・運用管理性の向上
- ・旧環境からの円滑な移行

2FA の導入によりメールシステムのセキュリティ強化を実現することができた。

直感的でわかりやすいウェブインタフェースのおかげで、利用者と情報処理センター職員の双方にとって円滑な移行ができ満足している。

私たちの大学のようにオンプレミスでメールサービスを維持管理していこうとする組織のソリューションとして Zimbra は最適である。

多田知正
教育学部教授
情報処理センター長

無料デモ申込